

年月日

23 08 01

ページ

21

N.O.

世界が進むチカラになる

MUF G[®]

「脱炭素化コストを吸収できる経済力を付けるための技術を社会実装する金融支援が大切だ」
三菱UFJ銀行サステナブルビジネス部長兼事業共創投資部長の西山大輔は国を挙げての脱炭素化に向けた銀行の役割をこう説明する。経済力がなければ、温室効果ガス

する企業



日本の宇宙産業支援

ス(GHG)排出量を減らせる設備を高コストで導入・維持することができないからだ。西山は既存産業の支援だけでなく、日本がまだ参入できていない領域に

小型ロケットによる人工衛星打ち上げ事業に取り組むスペースフラン(東京都港区)、23年2月には

環境利用の実現に向けたシナリオ検討調査への参画が決定。同年12月に一チエーン(価値連鎖)を日本で生み出すための支援に三菱UFJ銀行が関与したことになる。

衛星が得た地球のデータを終えた衛星を除却するまでの宇宙事業のバリューチェーン(価値連鎖)が発展に日本企業の今後の事業計画や脱炭素化を支える土台となる」と力説する。海外の衛星を使った場合

日本企業が研究開発できる土壤を作ることを重視する。その一つが宇宙産業だ。

宇宙ゴミ除去などの軌道上サービス事業を手がけるアストロスケールホールディングス(同墨田区)に出資した。

2022年11月には宇宙開拓研究開発機構(JAXA)の「持続可能な宇宙空間に送り、送った衛星をこう説明する。経済力がなければ、温室効

ガスも生み出せ、衛星を用いた通信環境の構築も可能になる。無重力環境を用いて創業バイ

オ関連の研究開発を行うなど「より高度な研究開発にアクセスすることで日本産業を高度化できる」とする。(西山)

西山は、こうした日本

国内で価値連鎖生み出す



▲スペースフランの射出イメージ

(敬称略)